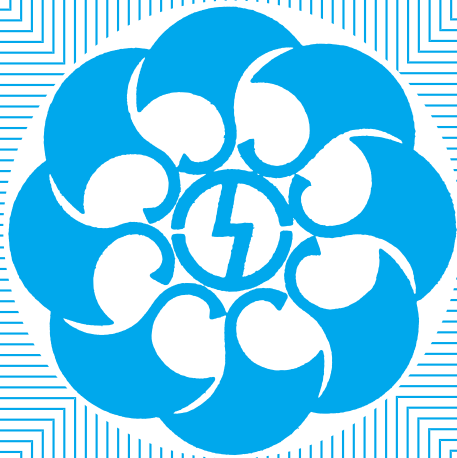


会報



社団法人 神奈川県空調衛生工業会

第109号



目 次

新年のごあいさつ	会 長 川本 守彦	1
新年のごあいさつ	神奈川県知事 松沢 成文	2
新年のごあいさつ	横浜市 市長 林 文子	3
新年のごあいさつ	川崎市 市長 阿部 孝夫	4
平成23年新年賀詞交換会		5
定例理事会議事報告（11月・12月・1月）		7
横浜市建築局平成22年度合同安全パトロール	安全委員会	8
「かながわインターンシップ推進優良企業・団体表彰」を当工業会が受賞		13
親睦会報告		13
会員消息		14
編集後記		14



新年のごあいさつ

会 長 川 本 守 彦

平成23年の新春を迎え 謹んでお慶び申し上げます。

緩やかながら回復傾向にあった日本経済は、世界経済の減速や長引く円高の影響もあり輸出や生産の停滞が企業収益を圧迫し、設備投資や雇用・賃金を下押しするリスクが懸念される状況にあると思われまます。さらには、政策効果の息切れ、政治の混乱など先行きへの不透明感を増しています。建設業界では、公共工事は大幅な縮減が続き、民間国内設備投資も抑制される中、低価格受注競争の激しさが長期化し経営体力を疲弊させています。そして労働条件の悪化、さらには人材の育成・確保や、技術・技能の継承・維持等が構造的課題となっています。

こうした閉塞感のある一方、深刻化する地球温暖化問題を考えた場合、私たちにはその生業として、低炭素社会づくりの先導的役割を担える強みがあります。そして、その実現へ向けて当業界に対する社会・地域からの期待は絶大であり、まさにビジネスチャンスもここにあり、社会・地域に大きく貢献できる好機でもあります。当業界は、空調衛生設備の重要性を広く社会にアピールし、総合環境設備工事としての独自性の確立を目指してまいりたいと思います。

そのためにも、品質を確保し適正価格による直接発注を促し、適正工期・十二分な安全管理等を実現させ、ひいては優秀な人材の確保と技術力の維持・向上につなげてまいりたいと思います。会員企業は、従前より申し上げており、これまで社会資本の整備を通して社会・地域に貢献してきた業界・企業だという自信と誇りを忘れることなく、さらなる社会的信用を得るためにも、コンプライアンスを強く意識し、

経営力・技術力を向上させるための自助努力を怠ってはなりません。そして、直接的な顧客との接点を積極的に増やし、新しい需要を主体的に創造していかなければならないと思います。

工業会としては、従来にも増して、不透明感を増しつつある状況下での工事量確保を目指し、会員企業の経営力・技術力の資質向上に向け、研修見学会・技術講習会、安全パトロールの実施等に積極的に取り組んでまいりたいと思います。

最後に会員の皆様とこの難局を乗り越えていく決意と行動を心より期待し、年頭のご挨拶とさせていただきます。





新年のごあいさつ

「先進力と協働力 ～夢と希望にあふれた神奈川に～」

神奈川県知事 松 沢 成 文

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新たな抱負や願いを胸に新春を迎えられたことと存じます。年頭に当たり、皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

私が神奈川県知事として2期目の重責を担わせていただいているから、4回目の正月を迎えました。この4年を振り返りますと、「現地現場主義」の下で250カ所以上の現場を訪ね、皆様の生の声を伺いました。そして、総合計画「神奈川力構想」を着実に推進するとともに、11の政策条例の制定をはじめ、さまざまな先進政策を展開してきました。

まず、保健福祉施策には喫緊な課題として重点的に取り組んでいますが、その中でも「総合的なたばこ対策」が挙げられます。全国初の受動喫煙防止条例が昨年4月に施行され、事業者の皆様への対応も進みました。都道府県で初めて「海水浴場では喫煙場所以外では喫煙してはいけない」というルールを導入し、たばこをやめる卒煙塾の開講など生活習慣の改善にも取り組んでいます。

また、「地球温暖化対策」については、電気自動車（EV）の普及など、地球温暖化対策推進条例に基づく取り組みを進めています。EVタクシーの推進やEVバスの技術開発など民間の取り組みも後押しし、EV社会を神奈川から実現していきます。

さらに、「地域経済の活性化」では、インベスト神奈川により5年間で総額6,400億円を超える県内投資を実現しました。今年度からは、研究開発など成長支援へ力点を移した新たな企業誘致施策を実施しています。経済活性化に有効な交通ネットワークも、さがみ縦貫道路（圏央道）や首都高川崎線の一部開通など着実に整備が進んでいます。

昨秋に実現した羽田空港の国際化は、本県と

世界各国との人やモノの流れを大きく変え、経済再生の起爆剤となります。県としては、神奈川の優位性を最大限生かしながら、新たな可能性を創造し、魅力を高め、それを国内外に向けて発信していきます。

加えて、「人づくり」では、県立高校における日本史教育の必修化や、政治参加教育などのシチズンシップ教育に取り組んでいます。産業人材や福祉人材の育成なども着実に実施し、明るい確かな神奈川を築くため、未来を担う人づくりを進めます。

地域の最大の関心事である、「安全・安心まちづくり」は、警察力の強化や県民の皆様と一体となった活動により、刑法犯認知件数が平成14年の19万件から半減し、交通事故も大幅に減少しました。全国で初めて開設した「かながわ犯罪被害者サポートステーション」における犯罪被害者支援の取組みも着実に進んでいます。

こうした政策は、県民の皆様への協力なくして進めることはできません。今後も、さまざまな分野で県民の皆様との協働を推進し、協働型社会・神奈川の実現を目指してまいります。

現在、地方分権改革が大きな展開を見せています。昨年、「関東地方知事会」は、本県の提案で、国の出先機関を廃止した場合の権限移譲の受け皿を検討する協議会を設置しました。県では、この国のかたちや政治のあり方をより住民に身近なものに変え、個性豊かで活力ある地域社会を実現するため、率先して取り組んでいます。

神奈川の「先進力」と「協働力」を生かし、県民の皆様へのくらしの安心を支えながら、未来を見据えた先進施策を進めることにより、本年が、夢を育て、希望を支え、活力を生み出す地域社会の実現に向けて大きな飛躍の年になることを期待しています。皆様には、引き続き、県政への温かいお力添えをお願い申し上げます。



新年のごあいさつ

平成23年の年頭にあたって

横浜市長 林 文子

あけまして、おめでとうございます。健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

神奈川県空調衛生工業会の皆様には、大規模地震による災害発生時に、公共建築物の応急措置を行う本市との協定を通じて、市民生活の安全確保に大きく貢献していただき、改めて感謝申し上げます。

横浜市長に就任して2回目のお正月を迎えました。張り詰めた中にも希望に満ちた新春の空気を胸に、充実した一年であったことに感謝し、新年への希望を抱いています。

昨年は、羽田空港の国際化など横浜アピールの絶好の機会到来の年でした。とりわけ、APEC横浜開催にあたっては、市民の皆様、地元の皆様から多くのご協力を賜り、国内外のお客様から「おもてなしの横浜」への賛辞をいただきました。改めて、厚く御礼申し上げます。

地域では、防犯、ひとり暮らし高齢者や登下校の小学生の見守り、環境活動、子育て支援など、自治会・町内会、NPO、企業の皆様の活動が、一層深まり、広がっています。市民の皆様の力は、まさに横浜の財産です。

さて、本年は、「横浜市中期4か年計画」の本格スタートの年。現在の安心と将来の活力、その両方を実現します。子育て支援や医療環境、教育の充実、そして、観光・コンベンション、国際コンテナ戦略港湾、横浜スマートシティプロジェクト、中小企業の皆様が元気になる施策に、一層、力を注いでいきます。

今年もわくわくする催しが目白押しです。5月には、トライアスロン世界選手権シリーズが開催されます。洗練された街並み、開港の歴史を感じさせるコースでの競技は、大きな魅力です。

横浜をホームグラウンドとするプロスポーツチームにも、熱い声援を送りたいですね。8月には、横浜美術館と日本郵船海岸通倉庫をメイン会場に、国際現代美術展・横浜トリエンナーレ2011が始まります。商店街やNPO、市民の皆様と一緒に、街全体を盛り上げ、親しめる催しとしていきます。

大変厳しい状況だからこそ、市民の皆様への共感の気持ちをもとに、ともに厳しさを乗り越え、信頼の市政を進めていきますので、本年も引き続き、皆様のお力を貸していただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、神奈川県空調衛生工業会のますますの御発展と、皆様の御健勝をお祈りし、ごあいさつとさせていただきます。





新年のごあいさつ

川崎市長 阿部 孝夫

あけましておめでとうございます。

新年を迎え、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げますとともに、今年一年が明るい話題にあふれた、良い年になりますようお願いしております。

昨年を振り返りますと、横須賀線武蔵小杉駅の開業や羽田空港の国際化により、川崎のポテンシャルがますます高まりました。また、サッカーワールドカップにおける川崎フロンターレの選手の活躍をはじめ、スポーツや音楽・芸術など本市の活力と魅力が一層輝きを放ちました。

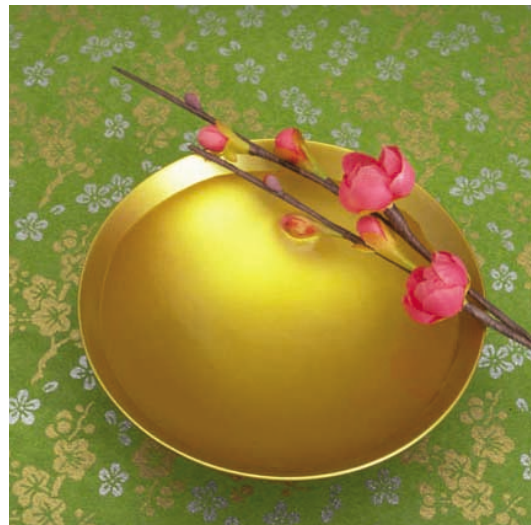
今年は、「川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画」及び「新たな行財政改革プラン」を策定し、川崎再生の総仕上げから「新たな飛躍」につなげる3か年のスタートの年です。

まず、特別養護老人ホーム、保育所の着実な整備促進、防犯・防災対策やいまだ厳しい雇用情勢への対応など、市民生活を支える自治体としての責務をしっかりと果たしてまいります。

また、羽田空港の国際化にあわせ、成長戦略の道筋を明らかにし、川崎臨海部・神奈川口において取り組んできたライフサイエンス・環境分野の研究開発拠点の形成による国際競争力の強化や、本市の最先端の環境技術を活かした国際社会への貢献、市内企業の技術の高度化や人材育成の推進など、川崎、そして首都圏、日本の成長を牽引していくような取組を進めます。

こうした中、川崎駅東口駅前広場の再編整備が完了し、川崎の玄関口として、環境配慮技術を盛り込んだ賑わいとゆとりのある駅前広場に生まれ変わるとともに、臨海部では、大規模太陽光発電所（メガソーラー）や太陽光発電等PR施設が運営を開始します。また、日本初の四年制の映画単科大学となる日本映画大学の開学、そして、藤子・F・不二雄ミュージアムの開館など、川崎の魅力を高める新たな地域資源が順次誕生します。

今後とも、市民生活の安定確保に取り組むとともに、魅力が輝き、活力にあふれるまちづくりに全力を傾注してまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。



平成23年新年賀詞交換会



松沢 成文
神奈川県知事



小松崎 隆
横浜副市長



田島 信二
神奈川県議会議長



大久保 純男
横浜市会議長

当会平成23年新年賀詞交換会が1月14日(金)午前11時から、ホテル・ニューグランドで開催されました。

当日は、神奈川県の松沢成文知事、横浜市の小松崎隆副市長、神奈川県議会の田島信二議長、横浜市会の大久保純男議長をはじめ、地元選出国會議員、自治体幹部、県議会・市會議員、関係団体幹部等の100余名のご来賓を迎えるなど、当会正会員、賛助会員と合わせて約300名が出席しました。

定刻、司会者（有井理事）の紹介により、主催者を代表して川本守彦会長が挨拶に立ち、本日ご出席のご来賓各位に対するお礼を述べられた後、「ちょうど一年前、私どもの新年賀詞交換

会でご記憶の方もいらっしゃるかと思いますが、私はこのような話をさせていただきました。不透明感漂う中、閉塞感を打開しきれない状況の下、経済対策は待ったなしの状況であり、経済再生のためには供給側に立った経済政策ではなく、需要側に立った経済政策つまり企業を元気にさせる経済政策を早急に実行してもらわなければならない。是非とも内需主導の経済対策を実行していただきたい。そして、なおかつ、民間設備投資言い換えれば民需が立ち上げられない状況下、即効性の高い公共事業官需を財源を選択・集中しつつ効率と経済波及効果の高いものを厳選して執行し、社会資本整備を進めていただきたい。その時に、中心的役割を担うのが

我々建設産業であり、建設産業の再生なくして日本経済・地方経済の再生はあり得ない、是非とも宜しく願いますと年頭にあたりご挨拶させていただきました。」と述べられ、「早いものでそれから1年が経ちました。去年の今頃から回復傾向にあった日本経済は、世界経済の減速や長引く円高の影響もあり輸出や生産の停滞が企業収益を圧迫し、設備投資や雇用・賃金を下押しするリスクが懸念され、不透明感を増しています。我々建設業界では、公共投資・民間国内設備投資も縮減される中、低価格受注競争が長期化し経営体力を疲弊させています。」と述べられ、続けて、「本日は多くの行政関係の方々、議員の先生方にご出席をいただいております。一年前その時申し上げた以上に工業会会長として声を大にして申し上げます。内需主導の経済対策を実行していただきたい。民間国内設備投資に期待できない状況の下即効性の高い公共事業を厳選して執行し、社会資本整備を是非とも進めていただきたい。まず、このことを年頭にあたり強く強く申し上げます。そんな中、神奈川県におかれましては最低制限価格の上限設定—予定価格の90%—を一年間延長することを決定していただき厚くお礼申し上げます。そして横浜市におかれましては、中期4ヵ年計画にある横浜市立の小中学校空調設備設置事業まさに我々の出番であります。昨年施行された横浜市中小企業振興基本条例に基づき、是非とも適確な対応をお願い申し上げる次第であります。」と述べられ、更に、「お願い事要望するからには我々には果たすべき責任があります。我々工業会としましては、神奈川県・横浜市、県民・市民の期待にこたえる為にも従前より強く申し上げているように我々は、社会資本の整備を通して社会・地域に貢献してきた業界・企業だという自信と誇りを持ち続け、社会的責任を十二分に果たし、さらなる社会的信用を得るためにも経営力・技術力を向上させる為の自助努力を怠ってはなりません。「神奈川発!! 地球にいいことひとつずつ」をスローガンに環境宣言を2年前発信いたしました。深刻化する地球温暖化問題を考えた場合、我々にはその生業として低炭素社会づくりの先導的役割を担える強みがあります。

多様化する社会・地域のニーズを的確にとらえ、我々自らが主体的にそして積極的に業界・企業のあるべき姿を考えスピード感を持って、諸事に対応していかなければならないと思います。自らの責任をきちんと果たすことによって、行政にも県民・市民にも社会的認知を得て、業界としての確固たる地位を確立できるものと信じます。

最後に本日、ご臨席いただきました皆様方のお力添えをいただきながら、地域づくり、まちづくり、社会づくりに積極的に、能動的に取り組んでいきたいと考えておりますので、なにとぞよろしくお願いいたします」との挨拶がありました。

続いて、ご来賓を代表して、小松崎隆横浜市副市長から、ご祝辞をいただきました。

次に、ご来賓の国会議員等をご紹介の後、神奈川県議会を代表して田島信二県議会議長、横浜市会を代表して大久保純男横浜市会議長から、それぞれご祝辞をいただきました。

また、当工業会顧問の新堀典彦県議会議員、佐藤祐文横浜市議員からもご祝辞をいただきました。

続いて、ご祝電披露の後、坂山修平(社)日本空調衛生工事業協会専務理事の乾杯のご発声で祝宴に移り、その後、会場に駆けつけていただいた松沢成文神奈川県知事からご祝辞をいただき、ご来賓、正会員、賛助会員の終始和やかな懇談が繰り広げられ、12時20分、中村章副会長の閉会の挨拶をもって、盛会裏のうちにお開きとなりました。



定例理事会議事報告(11月・12月・1月)

11月定例理事会

平成22年11月19日(金)午後2時から第458回定例理事会が開催されました。

その議事事項の要旨は次のとおりです。

1. 平成23年新年賀詞交換会実施計画(案)について

中村副会長兼総務委員会委員長から、大橋専務理事に対し、資料の説明が求められました。

専務理事から、配付資料により、当工業会の平成23年新年賀詞交換会実施計画(案)について説明があり、協議の結果、原案のとおり承認されました。

12月定例理事会

平成22年12月10日(金)午後3時から第459回定例理事会が開催されました。

その議事事項の要旨は次のとおりです。

1. 平成23年新年賀詞交換会の運営について

中村副会長兼総務委員会委員長から大橋専務理事に対し、資料の説明が求められました。専務理事から、配付資料により、当工業会の平成23年新年賀詞交換会等開催要領並びに同賀詞交換会当日の役割分担について説明があり、協議の結果、原案のとおり承認されました。

2. 友誼団体等賀詞交換会への出席について

中村副会長から、大橋専務理事に対して、平成23年における友誼団体等の賀詞交換会日程並びに本工業会の出席者(案)について、資料の説明が求められました。

専務理事が配付資料の説明を行い、各団体の出席者について、原案のとおり承認されました。

1月定例理事会

平成23年1月14日(金)午前10時から第460回定例理事会が開催されました。

その議事事項の要旨は次のとおりです。

1. 平成23年新年賀詞交換会の運営について

中村副会長兼総務委員会委員長から、大橋専務理事に対し、資料の説明が求められました。

専務理事から、配付資料により、当工業会の平成23年新年賀詞交換会の次第並びに同賀詞交換会の役割分担等について、確認のための説明があり、了承されました。



横浜市建築局 平成22年度合同安全パトロール 安全委員会

1. 総 評

第40回横浜市公共建築工事安全パトロール（平成22年度）は、11月15日（月）に横浜市発注の6現場（請負数7）について

- ①墜落、転落、建設機械、土砂崩壊、第三者災害防止への措置
- ②労働衛生管理（酸欠、粉塵、有機溶剤等に関する管理状況）
- ③建設産業廃棄物分別収集の実施（G30推進運動への協力）

上記3項目を重点目標とし、安全パトロールチェックリストをもとにパトロールを実施致しました。パトロール対象現場の平均出来高は、55.5%（平成21年度22.6%）で、平均請負金額は3,806万円/件（平成21年度4,496万円/件）という状況でした。

また、今年度パトロール対象の6現場のうちの1現場は、機械設備工事が空調・衛生工事に分かれて発注されており、6現場（請負数7）という状況でした。

パトロール点検項目は、17項目/現場（平成21年度16項目/現場）と昨年より若干多い状況でした。6現場のうち、当日設備作業員の入場していない現場が半数以上の5現場あり、又入場していても作業の段取りをしていたり、休憩時間と重なったことなどにより実際の作業状況を確認することが出来ませんでした。

その現場については現場代理人とのヒアリングにより確認させていただきました。

『産業廃棄物分別収集の実施』については、ほとんどの現場で行われ、また、鉄くず、金属類においては、リサイクルも進められており、『G30』の意識が浸透していることがうかがえました。

点検項目の評価としては、『A評価』、『B評価』の比率が、95.8%（平成21年度97.4%）と高く、一部書類や掲示物の不備も見受けられましたが、全体として安全管理意識が定着しているものと考えられます。



安全パトロール委員

編成班	氏 名	会 社 名
1 班	加 藤 久 貴	川 本 工 業 (株)
	高 木 和 明	(株) 光 電 社
	横 山 順 二	エ ル ゴ テ ッ ク (株)
2 班	隅河内 仁	(株) ヨ コ レ イ
3 班	椎 野 暢 朗	日 宝 工 業 (株)
	中 桐 成 浩	三 沢 電 機 (株)
4 班	團 末 太	山 本 電 気 水 道 (株)

■パトロール対象項目の評価状況

		平成22年度		平成21年度	
		総数	119	100%	114
パトロール 対象項目	A評価	65	54.6%	100	87.7%
	B評価	49	41.2%	11	9.7%
	C評価	5	4.2%	3	2.6%
パトロール項目数/現場		17.0		16.0	

※安全パトロール対象現場数 平成22年度 6 現場（請負数7）
平成21年度 7 現場（請負数7）

■工事進捗状況の分布

	0%	~20%	~40%	~60%	~80%	~100%	平均出来高
平成22年度	0	1	0	4	0	2	55.5%
平成21年度	0	5	1	1	0	0	22.6%

	工期内完成可能	やや遅れる	大分遅れる
平成22年度	7	0	0
平成21年度	7	0	0

■請負金額による工事規模の分布

	~2千万	~4千万	~6千万	~8千万	~10千万	~12千万	12千万~	平均請負金額
平成22年度	2	2	2	1	0	0	0	3,806万円/現場
平成21年度	1	3	1	1	0	1	0	4,496万円/現場

2. チェックリストによる項目別点検結果

①管理体制

項目	平成22年度				平成21年度			
	対象 件数	評点			対象 件数	評点		
		A	B	C		A	B	C
1. 安全管理組織表の掲示	7	4	3	0	7	3	3	1
2. 緊急連絡先一覧表の掲示	7	4	3	0	7	6	1	0
3. 適用事業報告、3・6協定届	7	3	2	2	7	5	0	2
4. 有資格者の確認（免許、修了証の写し）	7	3	4	0	7	6	1	0
5. 作業員名簿、健康診断個人表	7	4	2	1	7	6	1	0
6. 安全日誌の記録、指示書の発行	7	5	2	0	7	6	1	0
7. 新規入場者の教育の実施	7	5	2	0	7	0	0	0
8. 救急薬品の備付	7	4	2	1	7	7	0	0
9. 施工体制台帳・安全衛生計画書	7	3	4	0	6	4	2	0
10. 施工体系図の表示	7	4	3	0	6	6	0	0
計	70	39	27	4	68	56	9	3
	100%	55.7%	38.6%	5.7%	100%	82.4%	13.2%	4.4%

<指摘・指導事項>

- ・適用事業報告書、3・6協定届の不備（着手前に提出していない）
→着手前に届出を行うように指示。又、協力会社も含め書類に添付するよう指示
- ・作業員名簿に血圧等、健康診断の記録がない
→日付、血圧の数値記入指示。又、診断書のコピーを保管管理するよう指示
- ・安全衛生責任者教育を受講していない職長がいた
→安全衛生責任者教育未受講の職長に、受講の要請を指示
- ・KY活動にリスクアセスメントが盛り込まれていない
→建築業者の帳票を参考に、今後実施するよう指示
- ・救急薬品が現場に備え付けられていない
→現場事務所がなければ、現場代理人の車の中に保管するよう指示

主な指摘事項は、以上のとおりです。一部の現場において書類の管理面での不備が見受けられましたが、現場事務所を設置できない現場においても、建築業者、電気業者と協力しあい、詰所の共用や掲示物の工夫をされている現場が多数見受けられるようになり、各現場のご苦労が感じてとれ、感心させられるものがありました。

②一般事項

項目	平成22年度				平成21年度			
	対象 件数	評点			対象 件数	評点		
		A	B	C		A	B	C
1. 保護帽の着用（アゴ紐）	4	2	2	0	4	4	0	0
2. 保護具の確保、使用状況（マスク、メガネ）	3	1	2	0	3	3	0	0
3. 現場内の整理整頓、照明	6	3	2	1	7	7	0	0
4. 消火器の設置、喫煙場所の指定	4	3	1	0	6	6	0	0
計	17	9	7	1	20	20	0	0
	100%	52.9%	41.2%	5.9%	100%	100%	0.0%	0.0%

パトロール当日、作業員ゼロの現場が半数以上ありましたが、作業されている現場については特に問題はありませんでした。一部の現場で、共用部の照明の増設を建築業者と協力しあい増設するよう指示しました。

③墜落・転落防止

項目	平成22年度				平成21年度			
	対象 件数	評点			対象 件数	評点		
		A	B	C		A	B	C
1. ローリングタワーの設備等	0	0	0	0	3	2	1	0
2. 脚立足場の使用状況（三点支持、結束）	0	0	0	0	4	4	0	0
3. 開口部の養生は適切か	2	0	2	0	4	4	0	0
4. 脚立の単独使用（架台を使用していないか）	0	0	0	0	1	1	0	0
5. 梯子の使用状況	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 安全帯の着用と使用状況	3	1	2	0	4	4	0	0
計	5	1	4	0	16	15	1	0
	100%	20.0%	80.0%	0.0%	100%	93.8%	6.2%	0.0%

パトロール当日、約半数以上の現場は作業員ゼロでした。その現場の中で、スリーブ穴、ピットと言った開口部の養生はされていましたが、入り口に立入禁止処置、注意標識のない箇所がいくつか見受けられましたので是正の指示をいたしました。又、市当局監督官から注意標識は見やすい高さに掲示するよう併せてご指導いただきました。

④ガス・電気溶接

項目	平成22年度			平成21年度				
	対象 件数	評点			対象 件数	評点		
		A	B	C		A	B	C
1. ボンベの転倒防止措置	0	0	0	0	0	0	0	
2. ボンベに使用責任者名、空・充の表示	0	0	0	0	0	0	0	
3. ホース、ゲージに損傷、ホースバンド	0	0	0	0	0	0	0	
4. 溶接機の使用許可証、使用責任者名	0	0	0	0	0	0	0	
5. ホルダー、キャブタイヤ等に損傷	0	0	0	0	0	0	0	
6. 自動衝撃防止措置	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	
	-	-	-	-	-	-	-	

今回、使用している現場はありませんでした。

⑤重機・クレーン

項目	平成22年度			平成21年度				
	対象 件数	評点			対象 件数	評点		
		A	B	C		A	B	C
1. 車輛系建設機械の特定自主検査証	0	0	0	0	0	0	0	
2. クレーンの過巻防止装置等	0	0	0	0	0	0	0	
3. 立入禁止措置、監視員等の措置	0	0	0	0	0	0	0	
4. 用途外使用時の措置	0	0	0	0	0	0	0	
5. 玉掛用具の使用状況	0	0	0	0	0	0	0	
6. 点検記録（日常点検記録）	0	0	0	0	0	0	0	
7. 高所作業車の措置	0	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	
	-	-	-	-	-	-	-	

今回、使用している現場は、ありませんでした。

⑥電気設備

項目	平成22年度			平成21年度				
	対象 件数	評点			対象 件数	評点		
		A	B	C		A	B	C
1. 配（分）電盤の行先表示	4	3	1	0	0	0	0	
2. 電気取扱責任者の明示	3	2	1	0	0	0	0	
3. アースの接地状況	2	1	1	0	0	0	0	
4. 電動工具の使用状況	2	0	2	0	0	0	0	
計	11	6	5	0	0	0	0	
	100%	55%	45%	0.0%	-	-	-	

<指摘・指導事項>

特に無し

⑦その他

項目	平成22年度			平成21年度				
	対象 件数	評点			対象 件数	評点		
		A	B	C		A	B	C
1. 地山の掘削の状況	1	0	1	0	0	0	0	
2. 土止め支保工の状況	1	0	1	0	0	0	0	
3. 不安全作業、行動の有無	2	2	0	0	1	1	0	
4. 酸欠防止対策、換気方法	5	3	2	0	1	1	0	
5. 加工場・資材置き場の整理整頓	7	5	2	0	3	3	0	
計	16	10	6	0	5	5	0	
	100%	62.5%	37.5%	0.0%	100%	100%	0.0%	

<指摘・指導事項>

今回のパトロールでは実際の作業はされていませんでしたが、地山掘削・土止め支保工の施工状況等、工事写真で確認する事が出来ました。又、ピット内作業がどの現場でも予定されていました。作業計画を作成し、十分な安全対策を施し作業に取りかかるようお願い致しました。

⑧安全対策・G30活動状況

現場を統括管理している建築業者主催の災害防止協議会にはほぼ全社が出席し、協議会での審議事項及び諸官庁からの伝達事項等、月1回独自の災害防止協議会を開催し関係各社へ周知を図っています。

又、事業主パトロールもほとんどの会社で実施されて会社を上げての安全活動が身に着いてきました。

とかく小規模な現場では作業が優先され、安全が忘れられてしまうような事が見受けられます。このような時こそ会社を上げての安全活動を行う事により、現場で働く作業員の安全意識の高揚になり、労働災害の防止に繋がっていく事と思います。

『産業廃棄物分別収集』については、ほとんどの現場が、分別収集をし資源の再利用に取り組んでいます。各現場での産業廃棄物に関する意識は、昨年より更に定着しています。

改修工事（使用しながらの作業）が大多数を占めるようになり作業上の安全管理・第3者への災害防止への配慮、現場事務所のない現場での施工管理など、現場を進めていく上でより高いレベルでの的確な管理を要求される状況が年々増加しております。今後は、安全管理を効率的・効果的に行うためにも各作業員が現場に入場する際『事業主による作業員への送り出し教育』、『現場における新規入場者教育』を更に充実させ、またリスクアセスメントを取り入れた『現地KY』を確実に実施することが必要と感じました。

最後にあたり、横浜市当局、(社)横浜建設業協会、(社)横浜市電設協会の皆様のご指導、ご協力を得まして無事パトロールを遂行できましたことを厚く御礼申し上げます、報告とさせていただきます。

尚、この報告書は、神奈川県空調衛生工業会のホームページに掲載されています。ご参照ください。

ホームページアドレスは、<http://www.shinkuei.or.jp/>

◎ 横浜市公共建築工事安全パトロールに参加して

安全委員会委員
川本工業(株) 加藤 久貴

平成22年11月15日(月)横浜市建築局、(社)横浜建設業協会、(社)横浜市電設協会と当空調衛生工業会による合同安全パトロールが実施されました。

本年度で第40回を迎えたこの合同安全パトロールですが、事前説明会の会場で今年は1班2現場の4班体制で計8現場が対象との説明があり、近年の公共工事の減少が話題にのぼっていました。しかしながら、工事が激減しても安全に取り組む姿勢は以前より更に向上させ、労働災害は絶対に起こしてはならないという強い理念の基に安全パトロールが行わなければならないと、横浜市建築局天野公共建築部長がお話されていました。

例年通り、三大災害防止への措置、労働衛生管理、産業廃棄物分別収集の実施(G30推進運動への協力)の重点目標を掲げ、パトロールを実施致しました。

当日は、第1班のセレモニー現場に参加させて頂き、総勢20名以上の方が会場に集まりました。それぞれ自己紹介のあと横浜市建築局天野公共建築部長、横浜市総務局國原契約財産部長にご挨拶いただき、その後工藤横浜建設業協会会長から、仕事量が減っても安全第一で事故・災害のない公共工事を目指そうという趣旨のお話がありました。

建築、電気、機械に別れパトロールを始めました。当日は設備作業員が4名入場していましたが、配管作業の段取り中とあって実際の作業は見られず、現場代理人と場内を廻りながら説明を受けました。一部共用部の照度が不足であったので、照明の増設と開口部養生した部分の入り口に立ち入り禁止の処置を施すようお願いしました。事務所



も完備していたこともあり、安全書類は整備活用されていました。一部書類の不備を指示し、リスクアセスメントKYの実施をお願いして次の現場へと向かいました。

午後のパトロールは、すぐ隣の区のアレルギーセンター跡施設整備工事の現場でした。機械設備は空調・衛生別々に発注され2社の設備業者が施工されていましたが、当日は空調1社の作業員1名が屋上で冷媒管にスリムダクトを取り付けていました。作業的には特に危険となるものは見られず、現場事務所で書類の確認をしました。空調・衛生それぞれの業者とも、特に大きな指摘事項は見あたりませんが、今後施工されるピット内作業においては万全の体制で作業されるようお願いし、パトロールを終了しました。

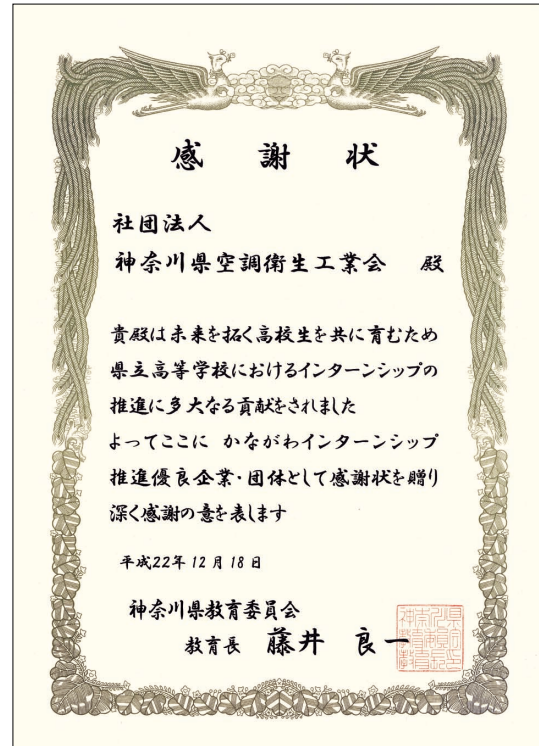
私も、この合同安全パトロールに参加させて頂き今回で7回目のパトロールとなりました。年々工事量は減少しつつも、三大災害の未然防止対策や労働衛生管理の徹底、G30推進運動への協力等、各業者さん方の安全、環境に対する取り組む姿勢もかなり定着してきているように思われました。今後も安全第一を基本理念とし、リスクアセスメント手法を確実に実施し、労働災害のない職場を目指していきたいと思えます。

ご同行いただいた小堀委員長、大原副委員長には厚く御礼申し上げます。また、パトロールしていただいた安全委員の皆様、大変ご苦勞様でした。



「かながわインターンシップ推進優良企業・団体表彰」を 神奈川県空調衛生工業会が受賞

平成22年12月18日(土)に神奈川県教育委員会主催の「かながわキャリア教育体験発表会」が、横浜市栄区の職員キャリア開発支援センターで開催されました。中学生、高校生のインターンシップ体験発表会に先立ち、当工業会会員企業がこれまで県立工科高等学校のインターンシップの充実・推進に尽力をしたことにより、神奈川県教育委員会教育長から感謝状を受賞しました。当日は、9企業、2団体が受賞され、当工業会は大橋専務理事が、授賞式に出席をしました。



親睦会報告

◎平成22年度釣大会



渉外委員会主催の釣大会が平成22年11月24日(水)に金沢漁港「三春丸」において13名が参加して行われました。成績は次のとおりです。

優勝 長谷川 茂三氏
〔大成温調(株)〕

優勝 長谷川 茂三〔大成温調(株)〕
準優勝・大物賞 小久保 幸彦〔日宝工業(株)〕

◎平成22年度前期ボウリング大会



渉外委員会主催の前期ボウリング大会が、平成22年12月2日(木)に若葉ハイランドレーンにおいて17名が参加して行われました。上位入賞者は次のとおりです。

優勝 後藤 守利氏
〔カナレイ(株)〕

優勝 後藤 守利〔カナレイ(株)〕
準優勝 松浦 民法〔東京ガスエネワーク(株)〕
ベストグロス賞・ハイゲーム賞 後藤 守利〔カナレイ(株)〕

会員消息

《正会員》

三沢電機株式会社					
変更年月	変更事項		新		旧
平成22年12月	本社	代表者	代表取締役	三澤 隆	代表取締役 三澤 漸

編集後記

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

さて、新年早々皆様に質問ですが『1+1=何ですか?』

こんなことを聞くとおかしいかもしれませんが、皆様は当たり前『2』とお答えになるかと思います。しかしそれを『どうして2なのですか?』と聞いたらどうでしょう。おそらくその定義を明確に答えることの出来る人は皆無かと思われま。

例えば1個の粘土と、もう1個の粘土を合わせたら大きな粘土になるだけで、それをどうして2と言うのでしょうか? そのときの答えは『大きな1』とも言えません。

また『1+1=』と聞かれて『漢字の田』と答える人もいるかもしれません。それは間違いでしょうか。

1つのものを考えるとき当たり前の答えの理由を考えてみて、またその答えから飛び出して考えてみる。さらにその答えを聞いたとき『そんな答えもあるのか』と受け止める柔軟さをもつ。

そんな考え方が出来たら今年も楽しく過ごせそうな気がします。私もなかなか出来ませんが皆様もチャレンジしてみませんか。

最後に2011年という年が会員各位の皆様にとって素晴らしい年になりますよう祈念させていただきます。(M.O)

Marketing
Planning
Creative
Printing



株式会社 D-サイト

〒221-0013 横浜市神奈川区新子安1丁目35番10号
TEL.045-439-3433 (代) 担当: 矢向 FAX.045-402-8462
TEL.045-439-3451 (制作部)

bestcommunication: マーケティング・企画・制作・印刷

今までもこれからも、水と空気で、未来を創る。 **TERAL**

**コンパクト、施工性は
そのままに性能がアップしました。**



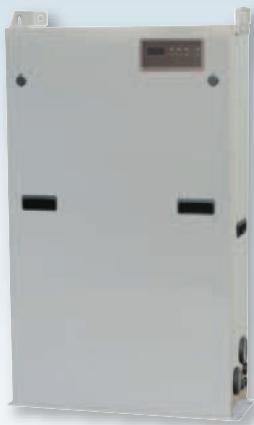
直結加圧形ポンプユニット

MC4

直結加圧形ポンプユニット



(社)日本水道協会認証品



テラル株式会社 www.teral.net

東京支社 / 〒112-0004 東京都文京区後楽2丁目3-27 テラル後楽ビル5階
TEL.03-3818-7800 FAX.03-3818-5031
横浜第1営業所 / 〒221-0031 横浜市神奈川区新浦島町1丁目1-25 (テクノウェイブ100 10F)
TEL.045-450-5351 FAX.045-450-5352
横浜第2営業所 / 〒221-0031 横浜市神奈川区新浦島町1丁目1-25 (テクノウェイブ100 10F)
TEL.045-450-5351 FAX.045-450-5352

東京・大阪など全国10支店、47営業所

TOTO

衛生陶器並附属金具
各種水栓金具
洗面化粧台・浴槽
給湯機
受水槽・高架水槽
システムキッチン設計施工
ユニットバスルーム設計施工

創業明治29年・TOTO(株)特約店

丹羽窯業株式会社

本社・横浜営業所
横浜市中区日ノ出町1-103 045(241)5321
東京営業所
東京都台東区台東1-27-7 03(3822)0267
目黒営業所
東京都目黒区南3-15-4 03(3718)4135
湘南営業所
藤沢市善行6-19-1 0466(82)6120
さがみ営業所
相模原市中央区上溝2370-6 042(764)7177



環境と時代の共生を求めて。

kanzai

管工機材・住宅・ビル設備機器・プラント機材、国内外総合商社

日本管杖センター株式会社

本社：〒104-8401 東京都中央区八丁堀2-24-3 PMOビル
TEL.03(5541)5111(大代表) FAX.03-5541-5115

配送センター：〒136-0082 東京都江東区新木場3-2-4
TEL.03(3522)1261(代表) FAX.03-3522-1265

azbil
グループ

創業1906年 山武の進化
人を中心としたオートメーション

山武は「計測と制御」の技術をもとに、建物や環境にかかわる省エネルギー・省力・快適・安全・利便性を追求し、企画・開発から販売・サービスまでの一貫体制を確立。建物経営をバックアップする最適なソリューションをご提供しています。

建物から社会へ、地球環境へ



株式会社 山武
ビルシステムカンパニー 横浜支店

〒220-8144 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー
TEL.045-224-1550 <http://www.azbil.com/jp/>

azbilは山武グループのシンボルマークです。

会 報

第109号 平成23年1月31日

社団法人 **神奈川県空調衛生工業会**

横浜市中区海岸通4丁目18番地

TEL 045 (201) 9536 (代)

U R L:<http://www.shinkuei.or.jp>

E-mail:info@shinkuei.or.jp

情報委員会

印刷 株式会社 D-サイト